

2015年9月26,27日 JTKGreen2015

Treat Lecture

神戸大学 2015年度外務副部長

川上 夏実

目次

1. 初めに
2. トリートとは
3. トリートのやり方
4. トリートに求められるもの
5. 最後に

1. 初めに

はじめまして、神戸大学のメンバーのなつと言います。今回は、1,2回生向けのトリートレクチャーを担当します。2回生の秋、私は「オピメ以外の時でも話したい、1回生のフォローができるようになりたい。」とっていました。

テーブルの中心が1,2回生に代わった今、トリートがテーブルでの役割を見つけるきっかけになればいいなと思って書いていきます。

2. トリートとは

トリートと聞いて、みなさんは何を思い浮かべますか？私は、先輩が私の話をテーブルに浸透させて、議論の仕方まで示してくれる姿です。私の中でのトリートとは、「議論を円滑に進める橋渡し」です。トリートは中立的、ハンドリングは意図的と考えています。ハンドリングは自分の進めたい方向へ下地を作りながら、進行していくイメージです。

これを前提に、レクチャーを読んでもらえたら嬉しいです。

3. トリートはだれのため？

1. 自分のため

中立的と言いつつ、プレイヤーの頃の介入はほとんど自分のためのものでした…(笑)
発言量を増やすと同時に、自分のペースに持っていくためにトリートをしていました。
QCACSで進めるからミスカンの心配も少ないし、相手に答えさせることで **proceeding** もできているように見えます。だれかが話し始めると介入ができなくなるという人は、ぜひ挑戦してみてください。

2. テーブルのため

困った人・進まないテーブルを助けることができます。**Confusion**を防ぐと、みんなで3時間をより有効活用できます。たとえごちゃったとしても、相手のインテを汲み取った進行はテーブルのニーズを満たす一手になると思います。

4. トリートのやり方

トリートには先発・後発型があると考えています。前者は**Confusion**の防止、後者は**Confusion**の解決に向いています。私は後発のほうが得意だったので、先発型は偉大な先輩のレクチャーを参考に説明します。

①先発型

～ごちやる前に自分でやってしまう～

一つはオピメの **definition** のトリート、もうひとつは人の **Q** のトリートです。

まず、オピメの **definition** のトリートについて。

これは自分から **Q** をして、オピメが **focus** する状況について共通見解を作ることです。オピメの定義が微妙なときに効果を発揮します。形容詞、副詞、二つ以上の意味が考えられる名詞、これらの定義を詰めていくことは一種のトリートです。ごちやる前に自分からやっていく姿勢を持ちましょう。

他人の **Q** のカンファメでは、**Q** の中にでてくる **vague word** をしっかり確認しましょう。

他人の **Q** の理解 (**Q** を用いる) →全体にカンファメ→オピメに振る→結論のカンファメが理想の流れです。

Q についてまずは自分がしっかり理解することです。

次に、全体のカンファメではテーブルのみんなに質問の内容をカンファメしましょう。このとき、**Q** がよりわかりやすい状態になって全員に伝わるのが理想です。

全員の理解が統一できたところでオピメに振ります。

そして最後に **Q** の結論をカンファメして終わりです。

このトリートをうまくこなすコツは **NLC** の技術です。特に **L** が大事です。質問の内容を一言でまとめることができるとステキです。

(2004年度神戸大学 Discussion Section チーフさんのレクチャーより抜粋)

プレゼンが単調になりがちなのは、わかりやすい言い換えを挟むとリピカンに聞こえづらいと思います。いかに時間をかけず、さらっとスマートに終わることが求められます。

②後発型

後発に必要なものは2つだけです。一つは **QCACS**、もう一つは「分けて考える」ことです。進めていく上で、忘れてはいけないことは**中立**であることです。

ごちゃった時というのは、たいてい**二項対立**が起きています。オピメと質問者、オピメとアーギュメンターなど…。**Confusion** が起こったときは、第三者になれる人が強いです。もちろん、当事者で解決できる人もいます。ですが、まずは外から二項対立を見つけることから始めてみましょう。

まずは、**QCACS** から確認していきましょう。**S** がなかなか打てないという声を聞きます。私もアッセ予選の直前まで悩みました。まずは、**S** を打つための **QC** を意識して、下の例を見ていきましょう。

A: Question (話をひとつ前に戻すための **Q**)

A: Confirmation (A の **Q** を浸透させるための **C**)

B: Answer (B の回答)

A: Confirmation (B の回答を浸透させるための **C**)

A: Suggestion (テーブルの進行を促す・決める)

例)

Topic: 安楽死

Pro: Dr. × carry out active euthanasia to patient.

Harm: Patients suffer mentally.

_____ : vague word

登場人物：オピメ、パンツ、A さん（第三者）

<Problem Area にて>

オピメ: Patient は active euthanasia で死にたいと思っているんだ。

パンツ: それだけ? 安楽死じゃない死にたいってありそうじゃない?

オピメ: ???

ここで、パンツさんは何をしたいのでしょうか?

ただ理由に興味を持っただけ? Patient の will の否定? それとも別の何か?

実際に **QCACS** で確認してみましょう。

A: オピメさんは Patient が A/E で死にたいって will について話していると思うんだ

けど、パンツさんって Patient の will の理由が知りたいの？それとも別の死因について言及してるの？

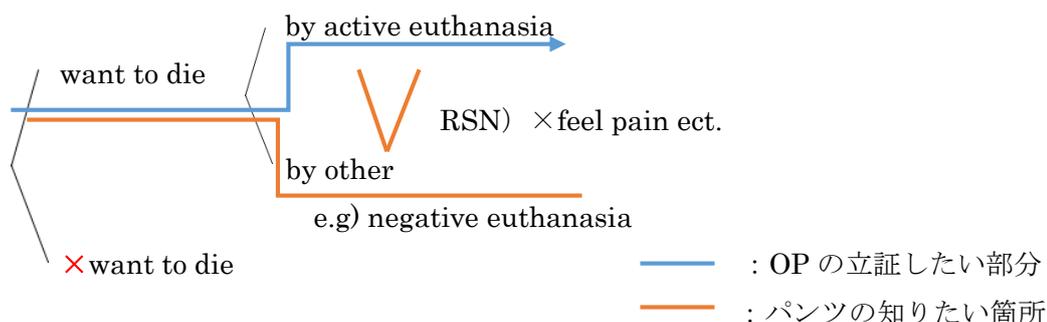
A : パンツさんの知りたいこと教えてほしい！

パ : Patient は A/E で死にたいって言うけど、それって他の死因と比べて考えてるの？
消極的安楽死とかいろいろあるのになんで？

A : なるほど。別の死因を考慮した上で、A/E をなぜ選んだのか知りたいんだね。
じゃあ、OP さんってここについてどう考えてるの？

オ : うーん、いろいろあると思うけど、一因は痛みを感じないってことかな

<Patient's will>



A : パンツさんの Q に対する答えは、一因として痛みを感じないこと。他にも RSN はありうるってことでいい？

オ : はい。

これが QCAC までです。OP さんの立証したいこと、パンツさんの知りたいことを分けて理解することが大切です。

あとは引き出した二項対立に対して S を打つことで一連の話が終わります。しかし、S と言ってもいろいろあります。1 番簡単な S は、「話を続ける (二項対立を解決する) /今は終える」のどちらかを選ぶことだと思います。

そこから発展して、続けるためにはテーブルに何がいるのか、いつ話すのかを考えると、S がより身近に感じると思います。そのときに、S の根拠は必ずテーブルでシェアしましょう！QCA で引き出した要素に絡めると、とても分かりやすい構成のプレゼンになります。

上の例では、OPさんの答えにパンツさんが納得しているかどうか重要です。質問で終わるのか、そこから議論が発展するのかはテーブルによります。うまくQCで引き出して、Sでどうするのかテーブルに示しましょう。

以上が先発・後発型トリートです。どちらも**相手を理解する力**が必要です。ただ人の話を聞くだけではなく、その人が知りたい・目指すものを読み取ることが求められます。そのためには、日々のケーススタや意見交換が大きな手助けとなります。自分ひとりで考えるのではなく、他の人と協力することで客観的視点を見失わないようにしてください。

5. 最後に

終わりに、KESSA CAMP, Assemblyを通して感じたことを述べます。2年半のプレイヤー時代で私が1番力を入れていたスキルはトリートです。自分の性に合っていたし、テーブルの意見をパパッと纏める神大の先輩に憧れがあったからです。

しかし、現1,2回生に伝えたいことは、トリートを最終目標にしてほしくないということです。トリートはごちゃりが起きたときに、最大の効果を発揮します。逆を言えば、お互いのインテが伝わった、ごちゃりのないテーブルにはトリーターの需要はありません。たびたび、私はそんなテーブルで自分の役割を見失うことがありました。

議論のためのトリートであることを忘れないください。議論を深めるためにはアイデアが必要です。アイデアには検証力が必要になります。トリートだけではなく、貪欲に様々なスキルを身につけてほしいという願いをこめて、このレクチャーを終わりたいと思います。

時間はまだ十分あります！プレイヤーの皆さんはぜひ自分のディスカッションを追及してください(*'▽')

※このレクチャーは私のディス観に基づくものなので、鵜呑みにせず自分のディスに使える部分だけ吸収してください！

何か質問等あれば、下記のアドレスまでいつでもどうぞ(@^^)/~~~

神戸大学 ESS
2015 年度外務副部長
川上 夏実
Mail: ruru.ioc8@gmail.com
Line: hima0824
